

5 - 16 南海トラフ東端部の海底地形・地質構造

Submarine Topography and Geological Structure in the Most Eastern Part of Nankai Trough

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

「相模・南海トラフの海底活構造調査」の一環として昭和56年9月、南海トラフ東端部の海底地形および音波探査による地質構造調査を行った。調査区域は南海トラフがその東端部で駿河トラフ方向に屈曲するところにあたる。その概要について速報する（第1, 2図）。

1. 南海トラフ：北部のトラフ底はほぼ平坦な海底地形を示す。第四系及び上部新第三系と見られる堆積物が、西北西に傾き下がる伊豆基盤上に楔状の堆積層を形成しており、顕著な変位変形は伴っていない。これに対し南部のトラフ底では楔状堆積物にNE - SW方向の褶曲や断層変位（逆断層）が見られるようになり、新期堆積物に覆い尽くされていない所では海底に起伏が見られる。

伊豆小笠原海嶺の西斜面に平行する緩斜面地形は、主として海嶺斜面の崖錐堆積物によって形成された可能性がある。

2. 陸側斜面：南部の南金洲ノ瀬（仮称MKK）は第四系および上部新第三系と推定できる堆積層によって構成されている。その南海トラフ側斜面にはNE - SWの断層に境された複背斜状の構造が見られる。これは南海トラフ東端部の陸側斜面が付加プリズムであることを示唆している。

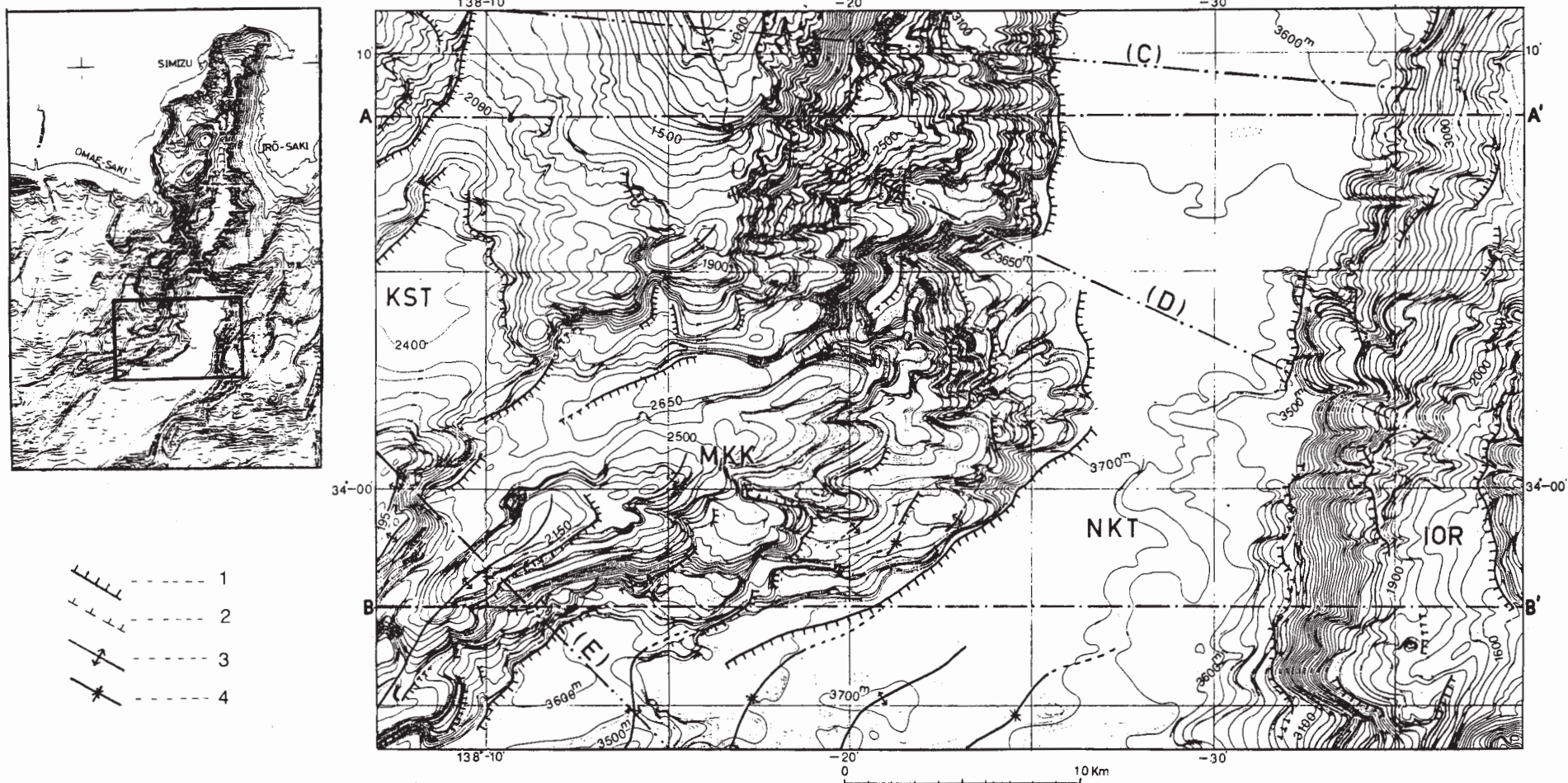
この地域の断層は一般にNE - SWおよびNNW - SSE方向をとる。特にNE - SWの断層は東部ほど南北に近い方向をとる。トラフ沿いの断層は明らかに逆断層である。

3. 伊豆小笠原海嶺斜面：トラフに向かって傾き下がっている伊豆基盤は中～下部新第三系と考えられ、上位層とともに南北に近い断層で切られている。

4. 活構造：この地域の褶曲及び断層はいずれも活構造と考えられる。

参 考 文 献

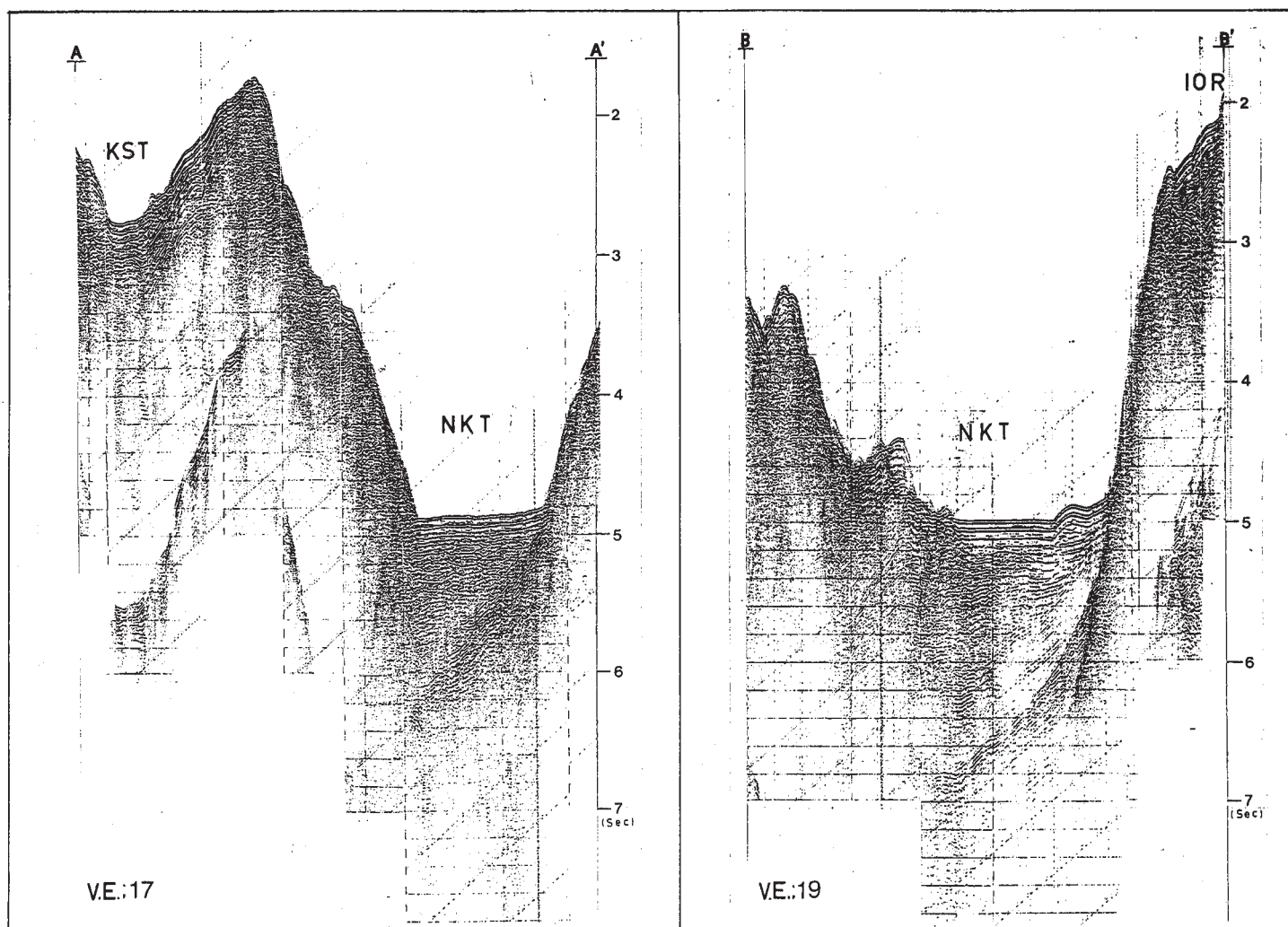
- 1) 海上保安庁水路部・地質調査所：南海・駿河・相模トラフのマルチチャンネル反射法音波探査，連絡会報，28（1982），239 - 247.



第1図 南海トラフ東端部の海底地形・地質構造（速報）

1：断層 2：推定断層 3：背斜 4：向斜 KST：金洲ノ瀬舟状海盆（仮称）
 NKT：南海舟状海盆 IOR：伊豆小笠原海嶺 MKK：南金洲ノ瀬海丘（仮称）
 (C)～(E)：マルチチャンネル音波探査断面¹⁾

Fig. 1 Submarine topography and geological structure in the most eastern part of Nankai Trough
 1: fault, 2: possible fault, 3: anticline, 4: syncline, KST: Kanesu-no-Se Trough (tentatively named), NKT: Nankai Trough
 IOR: Izu-Ogasawara Ridge, MKK: Minami-Kanesu-no-Se Knoll (tentatively named), (C)-(E): multi-channel seismic survey sections¹⁾



第2図 南海トラフ東端部のシングルチャンネル音波探査断面
位置は第1図に示す。

Fig. 2 Single channel seismic sections in the most eastern part of Nankai Trough
Locations are shown in Fig. 1.